

【授業科目】病態生理学 Pathophysiology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
山口央輝、吉田和枝	1年次前期	選択	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>いかなる現場でも遭遇する可能性が高い、Common disease を中心とするが、今までに経験した症例についても積極的に取り扱い、それら疾患の病態生理や、病態生理に基づいた対応について双方向性の講義を行う。病態は正常の解剖・生理の知識があって初めて理解できるものであり、適宜復習しながら進める事になる。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントする事で行なう。或は全体の総評コメントを授業内で提示する。</p>					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマポリシー②、③、④の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>学習者は、本カリキュラム修了後、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Common disease の病態生理を説明することができる 2) 経験のない疾患も、病態生理を元に病態理解ができる 3) それら理解を元にした看護を実践することができる 					
時間外学習に必要な内容・時間	<p>全講義に共通の事前課題として、各テーマについて自身の経験や課題を省察した上で参加してください。Paper patient を元にした事前課題が配布される場合があります。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画 (担当教員)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 15コマの概要について講義、学習の進め方や評価についての説明。学習者のニーズ調査 2. 呼吸器疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:気管支喘息、肺気腫、肺炎、気胸など 3. 循環器疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:急性冠症候群、心不全、高血圧、弁膜症など 4. 消化器疾患、肝胆膵疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:消化管潰瘍、肝炎・肝硬変、腸閉塞 5. 内分泌疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:糖尿病、甲状腺機能異常、副腎不全など 6. 腎・泌尿器疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:腎不全、糸球体腎炎、尿管結石、前立腺肥大など 7. 電解質・代謝、栄養疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:電解質異常(Na、K、Ca)、熱中症 肥満、糖尿病、るい瘦など 8. 血液疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:貧血、白血病、出血傾向など 9. 膠原病、アレルギー、免疫疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:アナフィラキシー、アレルギー性鼻炎、自己免疫性疾患など 10. 感染症の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:細菌感染症、ウイルス感染症など 11. 皮膚・筋骨格系疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:熱傷、褥瘡、変形性関節症、骨粗鬆症 12. 神経疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:脳卒中、パーキンソン病、認知症、けいれん、脱髄性疾患(ギランバレー)、末梢神経障害など 13. 精神疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:統合失調症、双極性障害、パニック障害、ストレス障害、アルコール依存症など 14. 生殖系疾患の原因と機序: 取り扱う疾患・病態:前立腺肥大症、乳癌、子宮内膜症、子宮癌など 15. 病態生理から考える臨床看護判断 					<p>1~13回 山口</p> <p>14、15回 吉田</p>
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・インタラクティブなディスカッションによる、直接観察評価 (40%) ・レポート評価 (60%) 					
教科書	なし	参考書等	<p>病気がみえる (メディックメディア)</p> <p>吉岡俊正「超ビジュアル病態生理学」(メジカルビュー社)</p> <p>木邑富久子「シンプル生理学」(南江堂)</p>			